

## 平成18年度通常総会

# 公益社団法人への移行準備進める

平成18年度通常総会が5月20日、東京・麹町の弘済会館で開かれた。総会には会員133人が出席し、①平成17年度事業報告及び収支決算・財産目録、②平成18年度事業計画及び収支予算、③創立100周年記念事業特別会計・平成17年度中間決算、④定款の一部変更、⑤監事選任、⑥平成18年度除籍者について審議し、いずれも原案どおり可決承認した(事業報告等の詳細内容は別掲)。

### ■会長あいさつ

## 社会に信頼される会をめざす

議案審議に先立ち平山善吉会長

はあらまし次のように挨拶した。  
一、皆さまの協力を得て100周年記念事業を無事終了したことを感謝したい。まだ『百年史』、中央分水嶺踏査、学生部のヒマラヤ遠征などの事業が残っており、これらが終了した段階でまとめて報告したい。決算は若干のプラスになる見込みだ。

前と比べ、ちょうど100人減少した。新入会員も1993年をピークに減少し、150人程度にとどまっている。このまま推移すれば2010年に5500人を割り込む見込みだ。会員の減少は会費収入の減少にもつながる。昨年度は日本山岳会創立以来はじめて税務調査を受けた。過去に遡っての詳細な調査だった。監督官庁からも会の運営について厳しい指摘を受けている。

一、こうした厳しい状況のなかで、言うだけではなく、会の実行力を高め、定款の改正や組織の統廃合、役員若返り、事務局体制の整備、強化など、実行できるところから実行していきたい。会員の51%が支部会員であることを考え、支部の活性化にも力を入れていく。登山指導、文化・自然保護活動に対する支援などだ。支部長会議を7月にも上高地・山研で開催、また今年には年次晩餐会を東海支部の担当で、名古屋で行なう。学生部、青年部対策にも力を入れていく。青年部については5カ年を見通した海外登山の目標をつくりたい。高齢者対策も欠かせない。受益者負担を原則としながら、高齢者を対象にする新しい支援制度を考えたい。これらを通じ、日本山岳会の伝統と品格を失うことなく社会に信頼される、また登山界に親しまれる会として、新しい世紀に向かって出発していきたい。

### ■17年度事業報告・収支決算

## 記念事業、無事終える

この日の総会には2850通の委任状が提出された。現在、在籍者は5635人であり、出席者を合わせると、会員の3分の1を上回って総会は有効に成立した。

事業報告・計画、また創立100周年記念事業特別会計中間決算定款変更については吉永英明総務担当、収支決算・予算及び財産目録については贅田統重財務担当の各常務理事が説明した。

〔事業報告〕 100周年記念事業が相次いだ。5月に東北ブロックで記念式典を開催したのを皮切りに6月に京岐北陸、7月に九州、8月に北海道など全国8ブロックで記念式典を開催、10月15日には東京で総合式典を開いた。総合式典にあわせて「山岳図書・絵画展」を開催。また『新日本山岳誌』を編集・発刊した。自然保護活動も活発で、自然保護委員会が高尾の森づくり、青森支部が白神山地育林事業、東海支部が猿投の森づくりを推進した。海外登山はマナスル遠征隊をはじめ、東海支部が第8次インドヒマラヤ登山隊、福井支部がジャナリズ峰登山隊、富山支部がギャジ・カン峰登山隊をそれぞれ派遣した。



平成18年度通常総会で挨拶する平山会長

〔収支決算等〕 収支決算は、収入

が9081万円となり、予算を23万円上回った。会費・入金収入は6674万円で予算額を315万円下回った。新入会員は180人を予定したが、150人にとどまった。事業収入は599万円で予算比381万円減。事業収入のなかで山研使用料収入が350万円の予算に対し167万円にとどまったのは、沢渡のげ崩れで入山者が減少したためだ。その他事業収入は、いわゆるグッズの販売収入だが、250万円と予算を大きく下回った。

補助金収入280万円は高尾の森づくりに対する国土緑化推進機

構からの助成金。寄付金20万円は故渡辺兵力名誉会員のご遺族からのも。秩父宮記念山岳賞基金に繰り入れた。敷金戻り収入は201号室と104号室の交換に伴う1378万円を繰り入れた。

支出総額は9323万円となった。うち事業費は5104万円、管理費は2954万円。建物建設購入支出1168万円は104号室の内装工事費。

これらの結果、当期支出合計は9323万円となった。次期繰越収支差額は848万円、期末正味財産合計額は4億2588万円で前期比883万円の増加。財産目録は前年に比べ大きな変化はないが、海外登山基金の預金をすべて定期預金に切り換えた。

これらに対し一力英夫監事から収支計算書等が正確かつ妥当であったことを認める監査報告があった。

## ■18年度事業計画・収支予算

### 年次晩餐会を名古屋で開催

〔事業計画〕 政府の「公益法人制

度の抜本的改革に関する基本方針」にしたがえば、社団法人は、平成20年度に特例社団法人となり、以降5年以内に公益社団法人となるか一般社団法人となるか選択し、内閣府に申請しなければならぬ。公益社団法人だと、独自の寄付金控除資格を得られる可能性もあり、日本山岳会は理事会において公益社団法人をめざすこととした。18年度は、その準備段階にはいる。事業計画は公益性を前面に押し出したものとなった。

▽公益的事業Ⅱ公益的事業を前面に打ち出すと同時に、日本山岳会の活動が東京だけではなく、全国的なものであるということで、支部の活動を積極的に取り入れた。宮崎支部が5月に少年補導登山を宮崎家裁から受託、山梨支部は6月に第2回山の博覧会「山を知ろう 山へ行こう」を開催、8月には、北海道支部が自然児学校、福井支部が親子登山、北九州支部が青少年登山教室、宮崎支部が子ども登山教室を相次いで開催する。10月には東海支部が知的障害者との登山をスペシャルオリンピックと名づけて行なう。2月には宮崎支部が県警の山岳救助を指導す

る。

自然保護事業も、公益事業の柱となっており「自然保護・山岳環境保全活動」として、北海道支部で高山植物盗掘防止パトロールを実施するほか、自然保護委員会の高尾の森づくり、青森支部の白神山再生育林事業、東海支部の猿投の森づくりを継続、さらに岐阜支部が小津権現山の遊歩道整備事業を受託、山陰支部は大山横手道上のブナ林育成事業を支援する。自然保護全国大会は10月に大山で行なう。環境省の「吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会」には自然保護委員会が関西支部とともに参加する。秩父宮記念山岳賞も公益事業ととらえて運営していく。

▽一般事業及び会員のための事業  
 Ⅱ全国支部懇談会は10月7～9日に福井支部の担当で永平寺で行なう。年次晩餐会は12月2日、名古屋で実施する。支部で行なうのは初めての試みであり、多数参加してほしい。海外登山は、学生部がマナスルの北側にあるパンパリヒマールに遠征、また東海支部が冬期ローツェ南壁に挑戦するほか、「海外遠征5カ年計画」を検討す

ることとした。

〔収支予算〕 これらに対する予算は、収入を7331万円とした。前年度予算に比べ1727万円の減少。特定預金の取り崩し1000万円がなくなった。入会金収入は3000万円と同60万円の減少。通常会費収入も同350万円減の6200万円と見込んだ。事業収入は7000万円とした。前年度予算比281万円の減少だが、実績と比較すると100万円増の目標となる。支出は前年度予算比1719万円減の7419万円。事業費は1583万円減の4378万円。管理費は、福利厚生費が社会保険関係費の増加で大幅増となったが、全体としては減少となった。当期収支差額は87万円のマイナス。18年度から社団法人に新会計基準が適用される。それに伴い、これまで任意だった減価償却を実施しなければならなくなった。どういう形で実施していけばいいのか検討し、年度末にきちんと処理したい。

### ■100周年記念事業収支

募金関連収入は7177万円の

100周年記念事業特別会計は平成15年度から開始した。来年3月で終了としたい。承認いただきたいのは平成15～17年度の収支決算である。

収支合計額は1億346万円。

募金関係収入は募金、寄付金、企画協賛収入の3つで計7177万円となった。会員募金としては、3454人の会員から募金をいただいたあと、有志募金として365人から1700万円を募金してもらった。企業からは105社から計2964万円の寄付をいただいた。また学生からは23校から計321万円をいただいた。企画協賛収入は中央分水嶺踏査に関する新聞企画に協賛しての収入だ。

支出は登山隊助成780万円など。施設費用として1378万円を一般会計に繰り入れ、104号室の改装などに充てた。晩餐会は、晩餐会の会費収入1380万円だけではまかないきれず、特別会計から1710万円を支出した。977人が参加し、うち料理・会場費等1470万円。

まだ「百年史」と中央分水嶺踏査事業を残しており、2444万円を繰り越した。

### ■定款変更

#### 理事削減、総会を年2回に

昨年度から実施している組織改革で「理事会」を業務執行の意思決定機関、「委員会」を事業実施機関と位置づけた。これに伴い理事は委員長を兼任しないこととし、意思決定の迅速化のため理事を減員した。当初、定款変更は、これだけの予定だったが、文部科学省から種々指摘され、字句の修正も含め大幅な改正となった。

おおきな改正点は、事業計画・収支予算を理事会の議決だけでなく総会の議決を経て文部科学大臣に提出するようにしたこと。これにより、通常総会を少なくとも年2回実施しなければならなくなった。また、会員の除名、役員・評議員の解任の際に対象者に弁明の機会を与えることを明文化した。

### ■監事選任・除籍予定者

#### 除籍予定者は96人

5号議案は監事(補欠1名)選任の件。一力英夫監事が辞任され



総会で質問する会員

たため後任に竹中彰会員(12981)を選任した。

続いて6号議案。除籍対象者の件である。平成18年度の除籍対象者は96人。会費を3年間滞納した人が除籍の対象となる。実際の除籍者は、13年度50人、14年度66人、15年度63人、16年度56人、17年度70人と推移している。これに関し、知人に声をかけ会費を納めて留まるよう勧めてほしいという要請があった。3年間の会費を一度に払わなくてもよく、1年でも納入すれば除籍対象から除外される。紹介者は適切に対処してほしいという要望もあった。

## ■質疑応答

### 会友制にきちんとした対処を

**石田稔郎会員(6065)** 事業委員会で行なっている韓国登山の費用がずいぶん高いと思う。なぜ高いのか。費用の内訳はどうなっているのか。収支計算書を明らかにしてほしい。

**平山会長** 事業委員会から報告をもらうことになっている。費用内容をご覧いただきたい。

**柴田篤志会員(4932)** 支部に「会友」という制度を設けているところがある。会費を徴収しているところもあるようだ。日本山岳会の規約にあるのか。収入は日本山岳会の収入となっているのか。山研利用などの際の資格はどうなっているのか。

**平山会長** 支部独自の方針で会友制度を設けているようだ。日本山岳会の会則にはない。収入は本部の収入とはなっていない。どのようになっているか、支部長会議などで話し合っているところだ。

**山田二郎会員(3473)** 公益事業を推進していくことは望ましい

ことと思う。とくに、今年は雪崩による事故が多かった。雪崩に対する講習会をぜひやってほしい。支部で実施するのもいいし、日山協や労山と協力してやるのでもいい。

**中野慶一会員(12473)** 収支予算のなかで予算額を前年度予算と比較しているが、これは前年度決算額と比較させてほしい。

**費田常務理事** 従来の形式でやってきたが、分かりにくいのは確かだ。検討したい。

**塩澤厚会員(9086)** 事業計画で「海外遠征5カ年計画」を検討すると表明されたが、中村保会員が苦労して踏査・紹介された東チベット地域をぜひ遠征対象に加えてほしい。

**石田会員** 100周年記念事業収支のなかで、カシオ時計の収入と支出の差額はなにか説明してほしい。

**吉永常務理事** 100周年を記念し記念品を頒布した。収入は会員への売り上げ、支出はカシオからの仕入れである。企画・事務費等の経費として差額をいただいた。

**芳賀孝郎会員(4637)** 100周年記念募金委員会から、みなさ

まのご協力に感謝申し上げます。委員長としては7000万円の大台に乗せたかった。募金関係のなかで420万円が協賛収入となっているのはなぜか。

**吉永常務理事** サントリーから新聞広告協賛金として420万円いただいた。企業側の事情で募金として処理できなかった。

**柴田篤志会員** 記念式典の会場となったプリンスホテルから寄付はあったか。招待者のお祝い金はどう処理したか。

**平山会長** 西武からは式典費用を値引きしていただいた。招待者からのお祝い金は寄付として処理した。

## ■懇談会

総会終了後、午後4時から懇談会を開いた。山田名誉会員の音頭で乾杯し和やかな歓談が続けた。

中締めは、和田豊司東海支部長。はじめて名古屋で開催する年次晩餐会への決意を語るとともに東海支部で行なっているユニークな「万歳」を披露し、会場をおおいに盛り上げた。

(文・高橋重之、写真・神長幹雄)